

# 1. 書式例の使い方と資料の内容

## 書式例の使い方

総務省は、低廉かつ標準的な方法で医療情報連携ネットワークが全国で構築される方向に進むことを目指しています。そこで、IHE (Integrating the Healthcare Enterprise)による標準規格を用いて記述された仕様書であるITIに準拠したクラウド型の医療情報連携基盤である「EHRミニマム基盤モデル」を医療情報連携ネットワークに実装する実証事業を行いました(平成26年度総務省事業)。

書式例は、EHRミニマム基盤モデルを医療情報連携ネットワークに実装することで、クラウド型で標準的な医療情報連携を実現するにあたり、必要となるドキュメント類のサンプルを提供するものです。実証フィールドである和歌山と岡山の2つの事例を用意していますので、各地域の実情に合わせて適宜ご参照ください。

## 書式例の内容

「2. 事例について」及び資料6で、和歌山モデルと岡山モデルの概要を把握して頂き、いずれの事例が参考になりそうかをご確認ください。クラウド型の情報連携を新たに始める場合は岡山、既にクラウド型で連携しているものの標準仕様ではない場合や他の医療情報連携ネットワークと連携する場合は和歌山が参考になります。

システム開発を調達する際、ベンダに提示する資料として資料1～資料4をお使いください。システム開発後、医療情報連携ネットワークに接続する医療機関等に提示する資料として資料4、資料5をお使いください。

資料番号	資料名	内容
1	クラウド等を活用した医療情報連携基盤の実装仕様書(API仕様書を含む)	・ EHRミニマム基盤を実装する方法やAPI仕様等を整理した資料
2	当該基盤の接続インタフェースに係るRFI及びRFPのひな形	・ EHRミニマム基盤を実装する医療情報連携ネットワークと接続する医療機関等や医療連携システムとの間でやりとりするコンテンツや方法について、ベンダに情報提供並びに提案を依頼する資料
3	当該基盤の接続インタフェースに係る情報セキュリティ要件	・ EHRミニマム基盤を実装する医療情報連携ネットワークと医療機関等の既存システムとの接続において満たすべき情報セキュリティの要求事項について整理した資料
4	当該基盤への接続と利用に関する契約書(SLA含む)のサンプル	・ 医療情報連携ネットワークの運営主体とネットワークの構築ベンダの間で締結しておくべき事項を整理した資料(運営主体とベンダ間で約束するサービスレベルを含む) ・ 医療情報連携ネットワークの運営主体と接続する医療機関等の間で締結しておくべき事項を整理した資料(運営主体とベンダ間で約束されているサービスレベルについての了承を含む)
5	当該基盤の運用ガイド	・ EHRミニマム基盤を実装した医療情報連携ネットワークに接続する医療機関等のユーザ、施設管理者、地域管理者向けにシステムの利用方法を示す資料
6	当該基盤を活用したモデル事例集	・ 平成26年度総務省事業において、EHRミニマム基盤モデルを医療情報連携ネットワークに実装した和歌山と岡山の実証内容を簡潔に整理した資料

## 2. 事例について

### ◆既存の医療情報連携ネットワーク概要

	和歌山	岡山
ネットワーク名称	<ul style="list-style-type: none"> <li>きのくに医療連携システム 青洲リンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療ネットワーク岡山(晴れやかネット)</li> </ul>
地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>県南地域に拠点病院が集中</li> <li>東南海・南海地震時の医療支援データの充実と医療サービスの継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部への医療資源の集中</li> <li>中山間部への医療支援(救急時等)</li> </ul>
連携目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療連携</li> <li>災害医療対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療連携</li> <li>在宅医療対策</li> </ul>
運営主体	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県立医科大学附属病院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人医療ネットワーク岡山協議会</li> </ul>
既存の連携方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウド型<sup>(注)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分散型</li> <li>情報開示施設(主に病院)はHuman BridgeかID-Linkのいずれかを利用)</li> </ul>
既存の情報共有の形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>双方向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参照のみ(情報開示は主に病院)</li> </ul>

### ◆EHRミニマム基盤モデルの実装方法

	和歌山	岡山
実装の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療介護連携の実現(地域包括ケアシステムとの連携)</li> <li>小規模医療機関等との医療連携の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>双方向の医療連携の実現(小規模医療機関による情報提供)</li> <li>連携体制の強化(県北・県央と県南)</li> </ul>
新規の接続対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>医科レセコン</li> <li>歯科レセコン</li> <li>地域包括ケア支援システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携システム(Human Bridge、ID-Link)</li> <li>医科レセコン</li> <li>調剤レセコン</li> </ul>
クラウドサービスモデル クラウド実装モデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>SaaS</li> <li>プライベートクラウド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SaaS(マルチテナント型のオンラインサービス)</li> <li>プライベートクラウド</li> </ul>
名寄せの方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>PIX/PDQ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PIX/PDQ</li> </ul>
ドキュメント交換方式	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>XDS.b</li> </ul>
異なる連携システム間での 情報共有	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>XCA、XCPD</li> </ul>

(注)クラウドコンピューティングは、本事業では経済産業省「クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン」(2013年度版)による定義を採用し、「共有化されたコンピュータリソース(サーバ、ストレージ、アプリケーションなど)について、利用者の要求に応じて適宜・適切に配分し、ネットワークを通じて提供することを可能とする情報処理形態」としている。クラウド型は、ネットワーク型の医療情報連携で医療機関が保有している情報を外部のデータセンタに預託し、クラウドコンピューティング技術を用いたサービスを利用して連携する方式を指す。